

日本ゼオン、富山県氷見市での光学用途向けゼオノアフィルム新工場建設を決定

2006年7月25日

日本ゼオン（株）（社長 古河直純）は、2004年10月に上市した新ゼオノアフィルム®（延伸フィルム）が液晶テレビの需要増加、特に画面の大型化に伴い急速に採用が拡大していることに対応し、富山県氷見市に当社100%子会社（株）オプテス（社長 梅沢 佳男）のゼオノアフィルム新工場建設を決定した。

大型液晶テレビの需要は、今後もデジタル放送転換に伴うテレビ買い替えなどにより順調に拡大する見込みであり、現在、オプテスの高岡工場（富山県 高岡市）では2006年10月までに生産能力を光学フィルム原反4,000万㎡/年、新ゼオノアフィルム（延伸フィルム®）3,000万㎡/年への能力増強工事を行っている。しかし、高岡工場はこれ以上の増設余地がないことから新工場の建設を立地を含めかねてより検討していた。

新工場は富山県氷見市に新規に用地約17万㎡を購入し建設する。投資額は第一期として約100億円を計画しており2007年9月完成を目指す。

工場建設場所としては、県内外の複数の候補地を検討してきたが、富山県の熱心な誘致活動と手厚い企業立地助成制度、高速道路インターチェンジに近いというアクセスの良さ及び高岡工場との一体運営を可能とする距離という観点から氷見市に決定した。

新工場は今後の需要の伸びにあわせて、第二期、第三期と段階的に設備投資を行う予定で、将来的には大型液晶テレビ用を中心とした各種光学フィルムの生産で高岡工場とあわせて約1億㎡/年の生産能力を持つ計画である。

1. 新工場の概要

- (1) 所在地：富山県氷見市上田子
- (2) 敷地面積：約170,000㎡
- (3) 建物：①構造 鉄骨造3階建て ②延床面積 約22,000㎡
- (4) 第一期生産能力：年産約1,500万㎡

(5) 第一期投資額：約100億円

補足説明

当社は、2002年10月に世界で初めて溶融押し出し法による光学フィルムの製造に成功し、位相差フィルム用の原反フィルムであるゼオノアフィルム®の販売を開始し2005年2月には 第二次増強を終了している。ゼオノアフィルム®は高透明性、低複屈折、低波長分散、低光弾性などの優れた光学特性を有するとともに、低吸湿性、高耐熱性などの特徴を有しており、液晶用光学フィルムとして優れた耐久性の提供が可能である。

新ゼオノアフィルム®はゼオノアフィルム®を延伸し位相差機能を付与したものであり、優れた光学特性と耐久性を有した位相差フィルムであり、加えて（1）位相差機能と偏光板保護機能を兼ねる。（2）ロールツウロールでの偏光板製造が可能。（3）画面の安定性向上に寄与するなどの特徴を持つ。

この結果、部材点数の削減および製造プロセスの簡略化が期待できる。また、品質面では偏光板の耐久性能が向上、画面の周囲の光漏れによるコントラスト低下の問題を克服できることから大型液晶テレビへの採用が拡大しているものである。

完成予想図



✉ 本件に関するお問い合わせ

日本ゼオン株式会社 **CSR**統括部門 広報室
Tel : 03-3216-2747

▶ お問い合わせフォーム

